

## 5 うるし採液調査（第5報）

予算区分：県 単  
担当科名：森林育成科

研究期間：平成 11～15 年度  
担当者名：小谷 二郎

### ．目的

県内産のうるし液の安定供給に資することを目的として、樹脂の増量に効果があると言われているジャスモン酸（植物ホルモン）の樹幹表面塗布を試みた。

### ．試験内容

以下の処理区を設け、6月18日から10月2日まで20回掻き取りを行い無処理木と比較した。

- 1．外皮剥皮木 - 3本
- 2．外皮剥皮木 + 0.1% ジャスモン酸 - 3本
- 3．縦溝入れ木 - 3本
- 4．縦溝入れ木 + 0.1% ジャスモン酸 - 3本
- 5．魚骨型溝入れ木 - 3本
- 6．魚骨型溝入れ木 + 0.1% ジャスモン酸 - 3本
- 7．無処理木 - 3本

処理および掻き取りは、剥皮は全周とし、溝入れはカッターナイフを用いて幅5mmで内皮まで剥ぎ取り、斜面の上側と下側の2箇所とした。塗布方法は、外皮剥皮木は全面塗布とし、縦溝と魚骨型溝は溝の中のみとした。処理部位は、高さ2m以下で長さ50cmの範囲とした。

それぞれの処理区の平均胸高直径は11.2（8.5～14.6）cm、樹高は7.2（5.5～8.2）cmである。

### ．試験結果

ジャスモン酸の効果は、みられなかった。しかし、外皮剥皮木と縦溝入れ木は無処理木の1.3～2.0倍の採取液量であった。ただし、魚骨型溝入れ木は、処理後1月で滲出が止まり液を採取出来なかった。このことから、うるし液の採取に際し、事前の剥皮や縦溝入れは効果的と考えられた。

### ．今後の問題点

ジャスモン酸は濃度を変えて試験する必要がある。また、剥皮や縦溝入れを簡単に与える方法を考える必要がある。

